

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター外科での
国内外科研修を終えて

福島県立医科大学消化管外科学講座

深井 智司

この度、日本臨床外科学会国内外科研修制度により、令和4年1月11日から31日までの3週間、横浜市立大学附属市民総合医療センター消化器病センター外科で研修をさせていただきました。

これまで、初期臨床研修開始から福島県内の医局関連施設でのみ外科研修を行っていたこともあり、かねてより他施設での手術見学や研修に興味を持っており、国内外科研修のプログラムに応募させていただきました。研修に当たっては大腸癌手術において大変ご高名である渡邊純先生が在籍され、また私の所属と同じく公立大学の附属病院であり、人材や資源等の制限がある中でいかに手術を組み立てて、若手外科医の教育を行われているかを体感できると考え、横浜市立大学附属市民総合医療センターでの研修に応募いたしました。

研修期間中は主に下部消化管外科の渡邊先生のチームで研修をさせていただきました。手術研修では、数多くのロボットや腹腔鏡による結腸・直腸癌手術を見学する機会をいただきました。渡邊先生の執刀や指導においては、神経ガイドを意識した手技が徹底され、常に正しい層で進行し、それらがチーム全員で定型化され共有されていることに驚きました。出血が全く生じず、手術がよどみなくスムーズに進み非常に低侵襲であることを感じました。また、渡邊先生の妥協のない説得力のある指導の中には手術への考え方やコツが豊富に盛り込まれており、それらを拝聴することができ、とても勉強になりました。自分自身も手術にカメラ持ちとして参加させていただくこともでき、諏訪雄亮先生に私の手術執刀ビデオを直接指導いただいたことも大変貴重な経験でした。

新しい手術としてTaTMEを併用したtwo team手術を初めて見学させていただいたことも印象的でした。TaTMEは出血が少なく、層が保たれcircumferential resection marginを十分に確保できている実感がありました。そして習得しづらいと感じていた肛門周囲から骨盤底解剖が画面に映され、学習しやすいことも魅力でした。病棟研修では、低侵襲手術を反映してか研修期間中の手術患者全例が合併症なく早期に退院されており、質の高い手術であることを伺い知ることができました。

3週間という短い期間ではありましたが、ハイクオリティな手術や新しい手術を体感できたこと、他大学の医局の雰囲気を感じることができたこと、手術のことばかり考える時間は私にとってかけがえのない経験となりました。密度の濃い3週間となり、私の外科医人生においてとても重要な期間とすることができたと思っております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えていただきました日本臨床外科学会会長の万代恭嗣先生、国内外科研修委員会委員長の高山忠利先生、また研修を快く引き受けてくださった横浜市立大学附属市民総合医療センターの國崎主税先生、渡邊純先生並びに消化器病センター外科の皆様へ深く御礼申し上げます。3週間の不在をお許しくださった福島県立医科大学消化管外科学講座の河野浩二教授、医局の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。



研修終了時に諏訪雄亮先生, 渡邊純先生と